

昨年7月の大雨についての避難状況アンケート調査

- 昨年7月・8月の豪雨により、各地で土砂崩れや家屋浸水などの大きな被害が発生。
- 各自治体では、危険が迫る地域の住民に対して、避難勧告や避難指示などの避難情報を発出し、住民の方々の避難を促した。
- 7月の大雨の時に住民の方々が実際に取った行動から、住民の方々がより確実に避難が出来る情報の内容や伝達方法について検討するため、雄物川の氾濫があった「秋田市・大仙市」の住民へアンケート調査を実施。

アンケート調査概要



※秋田河川国道事務所（左）と湯沢河川国道事務所（右）のホームページ

- 調査対象 : 7月の大雨で秋田市・大仙市から避難勧告、避難指示が出された地域の方
- 調査期間 : 平成29年10月31日～平成30年1月31日(大仙市)
平成30年1月15日～平成30年3月9日(秋田市)
- 調査方法 : ①秋田市及び大仙市内の自主防災組織会長へ直接配布・直接回収
②秋田県立大曲高等学校、大仙市立大曲中学校で生徒へ直接配布・直接回収
③大仙市役所及び各支所、大仙市内の道の駅、秋田市役所及び雄物川沿川の市民サービスセンターにアンケート票及び回収ボックスを設置
④秋田河川国道事務所及び湯沢河川国道事務所のホームページ上で入力

アンケート実施状況

秋田市

- ・秋田市役所
- ・西部市民サービスセンター
- ・大住地区コミュニティセンター
- ・南部市民サービスセンター
- ・雄和市民サービスセンター
- ・大正寺連絡所

▼アンケート設置施設

大仙市

- ・大仙市役所、各支所
- ・道の駅「かみおか」、「なかせん」
- ・大仙市Anbee2F
- ・大曲交流センター
- ・大曲中央公民館
- ・大曲地域職業訓練センター
- ・はびねす大仙



※アンケート票及び回収ボックス設置状況
(左：秋田市役所、右：大仙市神岡支所)

平成29年7月22日からの大雨による 避難状況のアンケート

【中間報告】

集計対象人数 : 774名

（大曲高校 : 448名

自主防災組織 : 289名

一般 : 37名）

（大仙市内の方を対象に平成30年1月10日時点集計）

1. 回答者の属性

集計数(大仙市内に在住の方)：774名

⇒避難勧告等の発令区域内：384名

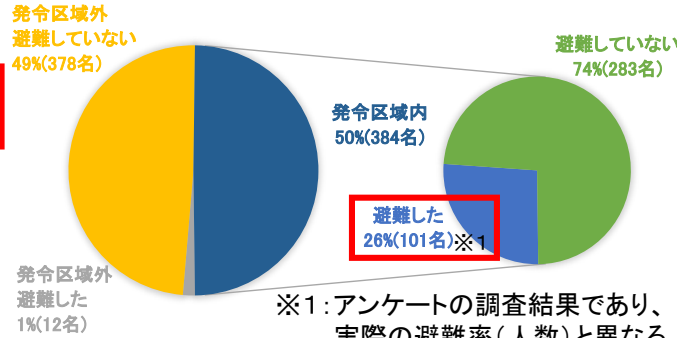
- ・避難された方：101名※1
- ・避難していない方：283名

避難勧告等の発令区域外：390名

- ・避難された方：12名
- ・避難していない方：378名

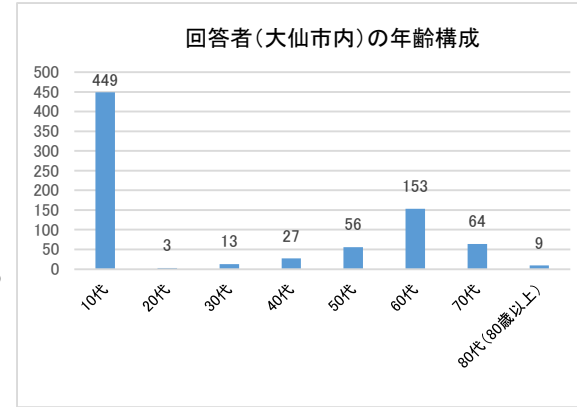
大仙市内(774名)

※H30.1.10時点集計【中間報告】



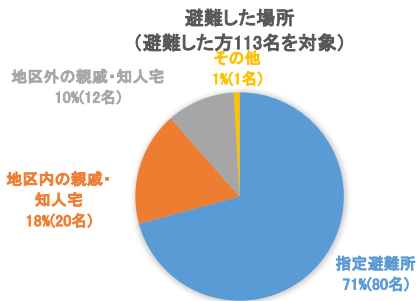
※1：アンケートの調査結果であり、実際の避難率(人数)と異なる

(避難された方113名を対象に集計)



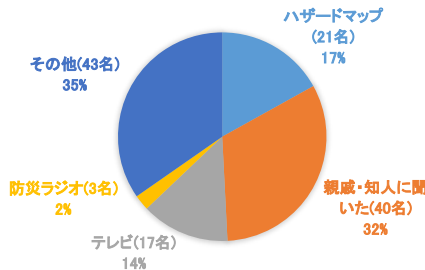
回答者(大仙市内)の年齢構成

2. 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動(避難された方113名)



指定避難所に避難された方が71%、次いで地区内の親戚・知人宅に避難された方が18%であった。

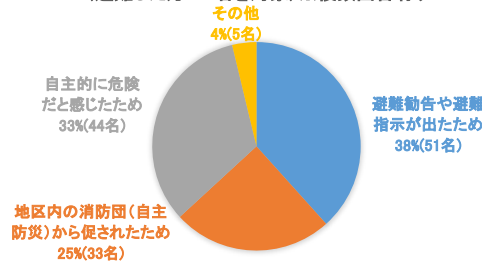
避難する場所を決めるのに利用した情報(避難した方113名を対象)※複数回答有り



「親戚・知人に聞いた」方が32%と最も多いが、「その他」は隣近所からの情報とか市役所・民生委員からの情報など様々であった。(特に自主防災組織)

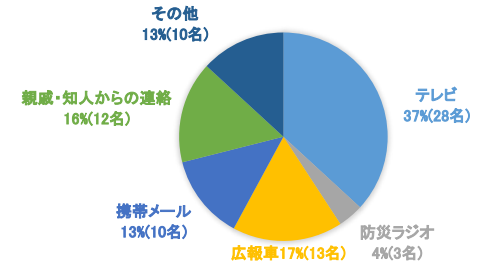
※率は複数回答124に対する割合

避難しようと思ったきっかけ(避難した方113名を対象)※複数回答有り



それぞれの回答が1/3程度であるが、自主防災組織の方々には、避難勧告や避難指示が出されていて、かつ、「危険だと感じたから」とか「地区内の消防団から促されたから」と回答された方が多い。※率は複数回答133に対する割合

避難勧告や避難指示は何で知りましたか(避難理由が避難勧告や避難指示とした51名を対象)※複数回答有り

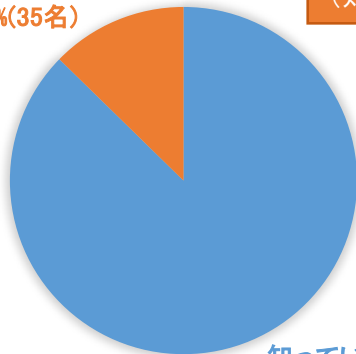


「テレビ」と回答された方が最も多いが、自主防災組織の方々には、複数の情報元から「避難勧告や避難指示」を知っていた方が多い。※率は複数回答76に対する割合

3. 7月22日からの大雨のときのあなたの取った行動(発令区域内で避難しなかった・できなかった283名)

避難勧告や避難指示の発令を知っていたか
(発令区域内276名を対象)※無回答7名除く

知らなかった
13%(35名)

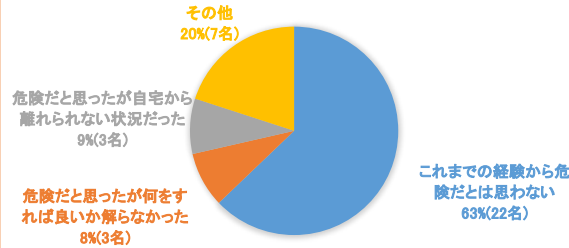


(知らなかった方35名)

知っていた
87%(241名)

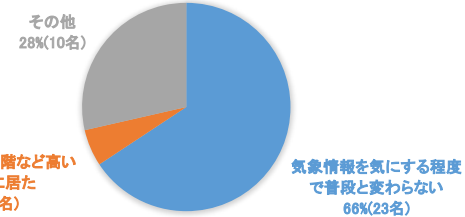
(知っていた方241名)

大雨の状況から自宅が危険だとは思わなかったか
(知らなかった方35名を対象)



「これまでの経験から危険だとは思わなかった」方が63%と最も多い。「危険だと思ったが何をすれば良いか解らなかった」と回答された方が3名いた。

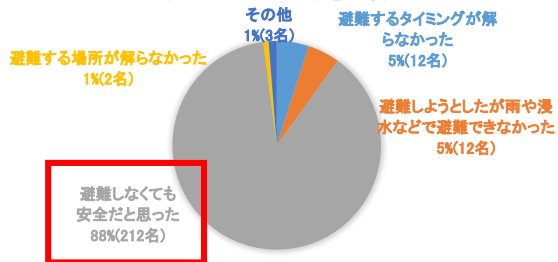
雨が降り止むまでの自宅での行動
(知らなかった方35名を対象)



「気象情報を気にする程度で普段と変わらない」が66%と最も多いが、「浸水に備えて2階など高いところに居た」と回答された方が2名いた。

※H30.1.10時点集計【中間報告】

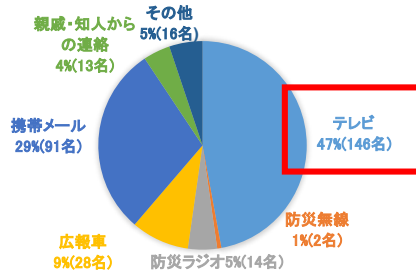
避難しなかった又はできなかった理由
(知っていた方241名を対象)



「避難しなくても安全だと思った」方が88%と最も多いが、「避難するタイミングが解らなかった(12名)」「避難しようとしたが雨や浸水などで避難できなかった(12名)」「避難する場所が解らなかった(2名)」との回答もあった。

※率は全体数241に対する割合

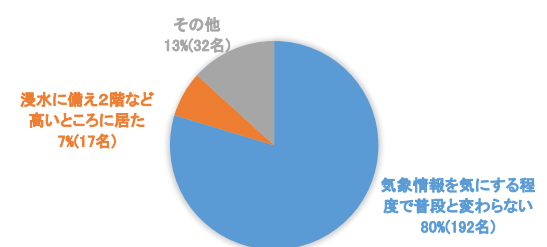
避難勧告や避難指示で出ていることを何で知ったか
(知っていた方241名を対象)※複数回答有り



避難勧告や避難指示を知ったのは「テレビ」が47%、次いで「携帯メール」が29%であった。

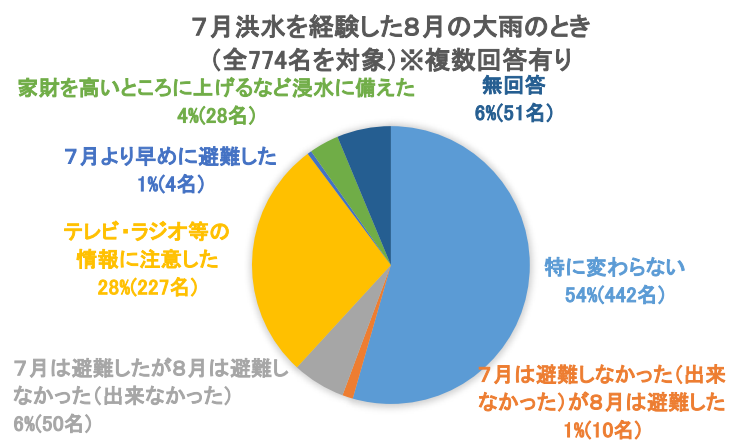
※率は複数回答310に対する割合

避難勧告や避難指示が解除されるまでの自宅での行動
(知っていた方241名を対象)



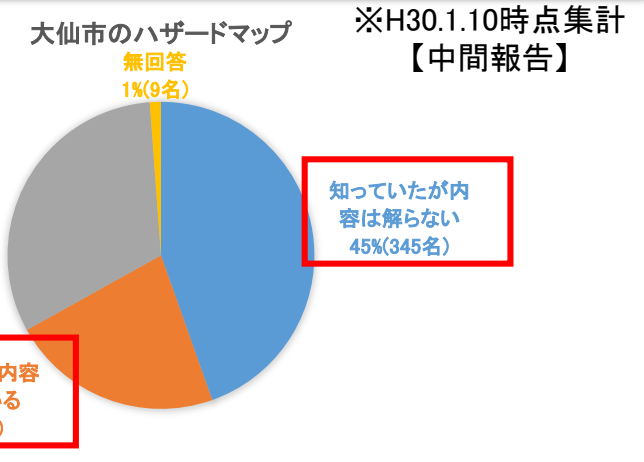
「気象情報を気にする程度で普段と変わらない」方が80%と最も多いが、「浸水に備えて2階など高いところに居た(17名)」との回答もあった。

4. 7月の大雨を経験した8月の大雨のときの行動、ハザードマップ・緊急速報メールの認知度(大仙市内の方774名)



「特に変わらない」方が54%と最も多いが、「8月は避難した(10名)」「情報に注意した(227名)」「早めに避難した(4名)」「浸水に備えた(28名)」と30%以上の方が7月の大雨のときと違った行動や注意をされていた。

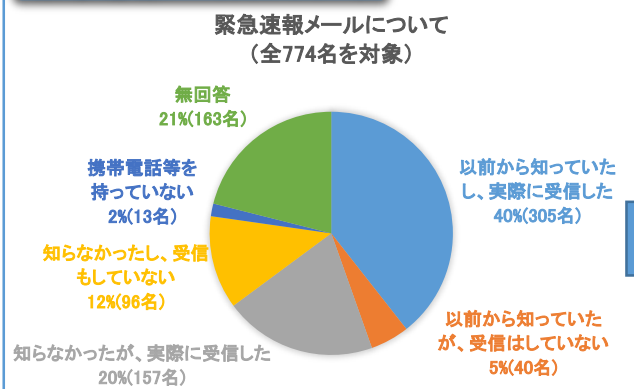
※率は複数回答812に対する割合



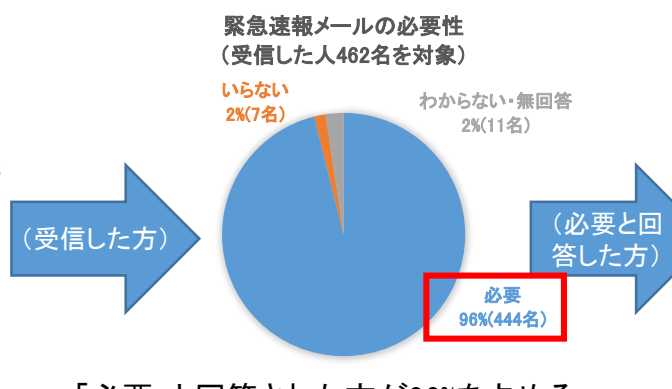
「知っていたし内容も確認している」方は22%に留まり、「知らない」方32%、「知っていたが内容は解らない」方45%となっている。

※率は全体数774名に対する割合

緊急速報メールについて

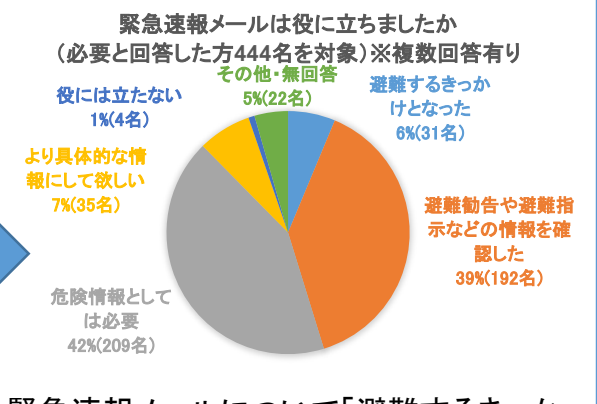


「受信した」方は462名(60%)であるが、「以前から知っていた」方は345名(45%)であった。この問いに対しては「無回答」も21%を占める。
※率は全体数774名に対する割合



「必要」と回答された方が96%を占めるが、「いらぬ」(情報が遅い(現状と合わないため、など))と回答された方は7名(2%)いた。

※率は受信した方462名に対する割合



緊急速報メールについて「避難するきっかけ」「避難勧告等の情報確認」「危険情報」などへの役割としている方が88%を占める。

※率は複数回答493に対する割合